

# 平成19年度全国学力・学習状況調査追加分析結果（案）の概要

## 「I. 児童生徒の生活の諸側面等に関する分析」の概要

### 分析1 学力と学習習慣・生活習慣・学校の取組等の関係

#### 1. 分析方法

児童生徒質問紙調査及び学校質問紙調査から得られたデータを用いて重回帰分析を行い、正答数との関係が強い項目を探求した。

#### 2. 分析結果

①質問項目のうち、学力との関係が強い項目は、家庭での生活・学習習慣に関する項目である

例「朝食を毎日食べる」

「学校に持っていくものを、前日か、その日の朝に確かめている」

「家で学校の宿題をする」

「学習塾で勉強している」（進学塾はプラス、補習塾はマイナス）

②次いで大きな関係が見られるのは、児童生徒の関心・意欲・態度に関する項目である

例「国語、算数／数学の勉強は好き」

「読書は好き」

③学校質問紙の項目で、学力との関係が見られる項目の例

「学校の教育活動の情報について、ホームページを開設して情報提供を行った」

「国語、算数／数学で発展的な学習の指導を行った」

「就学援助を受けている児童生徒の割合」（マイナス）

「都道府県が実施する学力調査を行った」

### 分析2 児童生徒の生活の諸側面等に関する分析

#### (1) 「朝食」、「家庭での学習時間」、「宿題」に着目した分析

##### 1. 分析方法

分析1において、正答数と顕著な関係が見られた家庭での生活・学習習慣のうち、「朝食を毎日食べる」、「家庭での学習時間」、「家で学校の宿題をする」を取り上げ、クロス分析を行った。

##### 2. 分析結果

朝食を毎日食べる児童生徒は、家庭学習や宿題をよくする傾向が見られ、朝食の摂取は、生活・学習習慣との関係が深いことが見られる。ただし、朝食を全く食べない児童生徒でも、他の生活・学習習慣が確立している児童生徒の正答数は比較的高くなっている。

#### (2) 児童生徒の生活の諸側面に関する項目を用いた主成分分析・因子分析

##### 1. 分析方法

児童生徒の生活の諸側面に関する質問紙項目を、「基本的生活習慣」、「家庭でのコミュニケーション」、「地域や社会への興味・関心」、「体験的活動の経験」、「自尊感情」、「規範意識」に分類し、主成分分析もしくは因子分析を行って項目を要約した値を算出した。この値を用いて、正答数及び学習習慣に関する項目との相関係数を算出した。

##### 2. 分析結果

正答数との相関が最も強いのは「基本的生活習慣」であった。また、「基本的生活習慣」は、「勉強する時間を自分で決めている」、「家で学校の宿題をする」という学習習慣との相関が強い。これより、規則正しい生活・学習習慣の確立が学力と関係していることが示唆される。

# 平成19年度全国学力・学習状況調査追加分析結果（案）の概要

## 「Ⅱ. 習熟度別・少人数指導についての分析」の概要

**集計対象** 「公立学校」＋「解答児童生徒数21人以上」に条件を限定して分析

### 分析1 習熟度別・少人数指導と平均正答数

#### 1. 分析方法

学校の平均正答数を習熟度別・少人数指導質問項目への回答別に算出して比較した。

#### 2. 分析結果

習熟の遅いグループに対する少人数指導や習熟の早いグループに対する発展的指導を行った学校の方が、少人数指導や発展的指導を行っていない学校より、学校の平均正答数はやや高い傾向が見られる

### 分析2 習熟度別・少人数指導と学力層

#### 1. 分析方法

- ①学校における学力層D（低学力層）の割合が集計対象学校全体における学力層Dの割合を下回っている学校の比率を、習熟の遅いグループに対する少人数指導の有無別に求めた。
- ②学校における学力層A（高学力層）の割合が集計対象学校全体における学力層Aの割合を上回っている学校の比率を、習熟の早いグループに対する少人数指導の有無別に求めた。

#### 2. 分析結果

- ①習熟の遅いグループに対する少人数指導を多くの時間で行った学校ほど、学力層D（低学力層）の児童生徒の割合が少ない学校が多い傾向が見られ、習熟の遅いグループに対する少人数指導が児童生徒の学力の底上げと関連があると考えられる。
- ②習熟の早いグループに対する発展的指導を多くの時間で行った学校ほど、学力層A（高学力層）の児童生徒の割合が多い学校が多い傾向が見られ、習熟の早いグループに対する発展的指導が児童生徒の学力を伸ばすことと関連があると考えられる。

### 分析3 習熟度別・少人数指導と学習に対する関心・意欲・態度

#### 1. 分析方法

「国語、算数／数学の勉強は好きだ」「国語、算数／数学の勉強は大切だ」「国語、算数／数学の内容はよく分かる」という質問項目について、学校において「当てはまらない」又は「どちらかといえば、当てはまらない」と回答した児童生徒の割合が集計対象学校全体における割合を下回っている学校の比率を習熟度別・少人数指導質問項目への回答別に求めた。

#### 2. 分析結果

習熟の遅いグループに対する少人数指導を行った学校や、習熟の早いグループに対する発展的指導を行った学校では、「勉強が好きではない」等といった児童生徒の割合が少ない学校が、習熟度別・少人数指導を行っていない学校よりも多い傾向が見られる

# 平成19年度全国学力・学習状況調査追加分析結果（案）の概要

## 「Ⅲ. 学力層に着目した指導方法等に関する分析」の概要

**集計対象** 「公立学校」＋「解答児童生徒数21人以上」に条件を限定して分析

### 分析1 指導方法等に関する取組と学校における学力層の割合

#### 1. 分析方法

指導方法等に関する学校の取組の違いにより、各学校における学力層Aの割合が増加するか、学力層Dの割合が減少するかを検討した。

#### 2. 分析結果

- ①学力層Dの減少が、より顕著に見られる項目  
「『朝の読書』などの一斉読書の時間を設けている」
- ②学力層Aの増加が、より顕著に見られる項目  
「ボランティア等による授業サポート（補助）を行った」  
「博物館や科学館、図書館を利用した授業を行った」
- ③学力層Aの増加と学力層Dの減少の両方が見られる項目  
「目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行った」（国語）  
「書く習慣を付ける授業を行った」（国語）  
「様々な文章を読む習慣を付ける授業を行った」（国語）  
「実生活における事象との関連を図った授業を行った」（算数／数学）  
「家庭学習の課題（宿題）を与える」（中学校：国語・数学）

### 分析2 指導方法等に関する取組と学力層Dの児童生徒の関心・意欲・態度との関連

#### 1. 分析方法

「国語、算数／数学の勉強は好きだ」「国語、算数／数学の勉強は大切だ」「国語、算数／数学の内容はよく分かる」「読書は好きだ」という関心・意欲・態度に関する質問項目に対する学力層Dの児童生徒の肯定的回答率が、指導方法等に関する学校の取組の違いにより、変化するかどうかを検討した。

#### 2. 分析結果

- ①国語に対する関心・意欲・態度に関連が見られた項目  
「『朝の読書』などの一斉読書の時間を設けている」  
「書く習慣を付ける授業を行った」  
「様々な文章を読む習慣を付ける授業を行った」  
「漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業を行った」  
「模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行った」
- ②算数／数学に対する関心・意欲・態度に関連が見られた項目  
「『朝の読書』などの一斉読書の時間を設けている」  
「ボランティア等による授業サポート（補助）を行った」  
「学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っている」

平成19年度全国学力・学習状況調査追加分析結果（案）の概要  
 「Ⅳ.『全国学力・学習状況調査結果チャート』を用いた  
 学力・学習状況の分析・検証手法の開発」の概要

1. ねらい

各学校等において、教科に関する調査、児童生徒質問紙調査及び学校質問紙調査から算出されたスコアを、チャートを用いて表現することにより、学校等の特徴を視覚的に把握する手法を開発・提案し、各学校等が調査結果を活用して自らの教育の成果や課題等を具体的に把握・検証するための分析の取組を支援する。

（領域の例）

○児童生徒：学習への関心・意欲・態度、規範意識・自尊意識、学習習慣・生活習慣 等

○学校運営：教科指導、学力向上、学校運営 等

「全国学力・学習状況調査結果チャート」の例

